

---

# 東方小説(仮)

CROW

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

東方小説（仮）

### 【Nコード】

N1638Z

### 【作者名】

CROW

### 【あらすじ】

幼い頃八雲紫に拾われた少年紫音はルーミアとであい仲良くなつた。

## 第一話（ルーミアルト）

13年前

紫「この子は一体何者（何か素質があるわね、しかも妖怪）」

紫音「こ、此処は何処」

彼は記憶喪失だった。しかし名前と言葉は覚えていた。そして日本刀を持っていた。

紫「名前は何」

紫音「紫音」

紫「親は」

紫音「いないよ」

紫「じゃあ私が親になってあげるわ」

そして現代

「もうすぐか」

彼は人里へ向かっていた。

？「ねえ、食べていい？」

「ん」

後ろからルーミアが来たのだった。

ル「食べていい」

「それじゃあ奢ってやるよ」

そして人里

門番「あ、紫音君通りたまえ」

彼は寺子屋へ通っていたので知り合いだった。

門「そいつは」

「こいつも一緒だ」

門「まあいいだろう、くれぐれもそいつから目を離すなよ」

？「見て妖怪だわ」

人々が口々に小声で言っていた。

そしてとある食堂

「いつもの奴、あとこの子にも」

店員「ああ分かった」

1時間後

「そう言えば名前は？俺は八雲紫音」

ル「ルーミア」

「また会おうか」

そして帰った。

## 第二話

ルーミアは昔異変を起こして封印されていた。しかし封印の札である赤いリボンが老朽化していた。

ル「痛い、ぶつかった？」

彼女が木にぶつかった時リボンが破れた。

ル「あ、リボンが」

そして彼女の体は20代ぐらいに成長して、空が暗くなり日光が遮られ、幻想郷は闇に包まれた。

博霊の巫女は異変と思い解決に向かった。今回は紫も来た。

紫「封印が解けた？」

霊「何か心当たりあるの」

紫「あれは500年ほど前、当時の博麗の巫女が命懸けで封印した妖怪、ルーミアと思うわ」

霊「あのリボンで封印してたの」

紫音は異変の原因を見つけた。

「あれはルーミア？」

ル「そう、私よ」

「これが本来の姿」

ル「早く逃げて、もうすぐ力が溢れ出す」

「俺が止める」

すると闇で出来た大量の槍が飛んで来た。彼は急いでかわしたが右肩に刺さった。

ル「ゆつくりと髑り殺してあげるわ」

彼はスペルを使用した。

「刀符「斬影剣」  
ざんえいけん

弾幕ではなく刀身が黒く鍔のない日本刀だった。そして再び彼女が

放った槍を高速で斬った。

ル「じゃあ剣には剣で相手してあげる」

そして彼女が黒い大剣を出した。

「ぐ、重い」

ル「この剣は自由に質量と長さを変化できる」

そして彼女が高速で斬った。彼は吹っ飛んだ。

「まさか斬る直前に重くしたか」

ル「正解」

そして再び振り下ろした。しかし彼女の剣が斬れた。

ル「一体何を」

「この剣は闇を切り裂く」

そして彼は彼女に飛びかかった。

ル「え？」

彼は彼女を抱きしめていた。彼女は彼の腹部を貫いていた。

「あが、もう止める」

ル「紫音」

その時無数の弾幕が彼女に向かって飛んで来た。しかし彼が庇い背中で受け止めた。

弾幕を撃つたのは霊夢と紫であった。

霊「紫音！大丈夫」

紫「よくも盾にしてくれたわね」

「霊夢、」

彼は倒れた。

紫「霊夢、殺す気で行きなさい」

ル「あ、紫音」

そして激闘を繰り広げた。そしてルーミアがボロボロになって倒れた。

紫「今回は封印じゃなくて殺す」

その時倒れていた紫音が立ちあがった。傷は消えていた。目の色は赤くなり黒い髪は灰色になっていた。顔はよく見えず赤い瞳が奥で

輝いていた。

「クククク、アツヒヤツヒヤツヒヤ」

そして狂ったように笑い出した。歯は肉食動物みたいに鋭かった。

「そろそろ体に馴染んで来たな」

手には刃の根元に赤い鬍髯の飾りが付き、刃が真つ赤な大鎌が現れた。

「すまないなルーミア、間に合わなくて」

ル「し、紫音なの」

紫「何者」

その時突然紫の体から血が噴き出した。

「大丈夫、死にはしない」

霊「な、何をしたのよ」

「過程を省略して結果を出しただけだ」

彼の能力は「省略する程度の能力」と「開いて閉じる程度の能力」

で種族は吸血鬼（no life king）であった。

「ルーミア行くか？」

ル「どこへ」

「俺のいた元の世界へ」

彼は父に「相手を見つけるまで帰って来るな」と言われ子供にされ異世界へ飛ばされた事を思い出した。

「一緒にそこへ行かないか」

ル「もちろんですよ」

そして能力で元の世界へとつながる扉を開いた。

## 第三話

紫音が生まれた世界

「親父、約束通り帰って来た」

父「おお、帰ってきたか」

そしていきなりルーミアの胸を掴み揉んだ。

ル「ちよっといきなり何やってんのよ」

父「Dかなかなかいい乳dグフオ」

「すまない親父は変態なんだよ」

ル「貴方はどうなの」

「どちらかというと母ちゃん似」

父「息子よ彼女の名は」

親父は何事も無かったかのように言った。

「ルーミアだよ」

父「ルーミアかいいい名前だ、息子をよろしく」

ル「(さっきから視線が胸に行ってるわね)」

数日後

結婚式が開かれた。そしてブーケトスした。掴んだのは……

？「(^^)おっ」

ル「誰……」

？「どうも執事長のナイト・ホライゾンです」

黒い髪で赤い瞳の執事だった。

その夜

「やるか」

ル「ええ」

そして1年後



ル「子供の名前決めた」

「ああ思いついた名前は

」

ル「ミアルト・完

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1638z/>

---

東方小説(仮)

2011年12月11日20時46分発行